



鳥取大学乾燥地研究センター 令和6年度 共同研究公募要項

鳥取大学乾燥地研究センターは、平成21年6月に共同利用・共同研究拠点「乾燥地科学拠点」として文部科学大臣より認定を受け、これまでの乾燥地科学研究への貢献が高く評価されたことにより、令和4年度以降も引き続き、乾燥地科学拠点として認定の更新が認められました。

これに伴い、一層の国際化及び人材育成を推進するため、海外研究者を招聘して行う新たな国際教育・研究プログラムなどの取組みを実施するとともに、引き続き、乾燥地科学のさらなる発展の基礎となる共同研究、及び乾燥地科学分野における研究者コミュニティの拡大・深化に資する研究集会を下記のとおり募集します。

1. 研究種目

共同研究

A. 戦略的重点研究(申請上限額：150万円/年・件)

本センターが戦略的に進め、国際的および学術的にも重要と認められ、かつ将来的に大型の研究資金獲得、または優れた研究成果が期待されるもので、以下に掲げる研究テーマに係る研究課題を申請者(研究代表者)が設定し、研究代表者及び研究分担者がセンター共同研究教員と協力して行う共同研究。

研究期間：最長2年間(2年目の公募時に継続申請が必要)

戦略的重点研究領域：以下に掲げる2領域

- ①「地上観測をメインとしたダスト動態解明を目指す研究」
(センター共同研究教員：教授 黒崎 泰典)

本センターはゴビ砂漠に黄砂(ダスト)発生モニタリングステーションを設置し、発生メカニズム解明に向けた観測、その成果の数値モデルへの応用、モデル計算結果を用いた健康影響評価等を行ってきた。しかし、これら研究成果の普遍性の確認、モデル精度の検証には、ダストの大気濃度と沈着量、ダストに付着する微生物量等について、少なくとも数週間～数ヶ月の間、発生・飛来地域の多地点において継続的に観測する必要がある。継続的観測の実現に貢献し、ダスト動態解明について飛躍的な進展が望める研究課題を公募する。

- ②「現場観測と衛星技術を融合した乾燥地監視パッケージの開発」
(センター共同研究教員：准教授 木村 玲二)

乾燥地における土地劣化(砂漠化)の特定は、気候変動や人為的影響が強く作用する難しい課題であるが、本研究ではAeolian desertification(飛砂や黄砂の発生)に特化したモニタリング手法およびそれらに基づいた評価・対策方法に関する「乾燥地監視パッケージ」の開発に主眼を置いた研究課題を公募する。

B. 一般研究(申請上限額：30万円/年・件)

乾燥地科学における新たな展開が期待される先駆的な研究、または本センターの施設・設備を利用した研究であって、申請者(研究代表者)の独創的かつ自由な発想に基づく、課題提案型の共同研究。研究代表者及び研究分担者がセンター共同研究教員と協力して行う。

研究期間：原則2年間(2年目の公募時に継続申請が必要)

C. 若手奨励研究(申請上限額：50万円/年・件)

次世代の乾燥地科学を担うことが期待される若手研究者（研究開始年度4月1日時点で39歳以下の研究者）の優れた着想に基づく、課題提案型の共同研究。研究組織は、若手研究者である申請者（研究代表者）及び研究分担者、センター共同研究教員で構成される。

研究期間：原則2年間（2年目の公募時に継続申請が必要）

D. 研究集会(申請上限額：50万円/年・件)

新たな研究プロジェクトの立ち上げや、新規に研究資金を獲得するための情報交換、研究者間交流の奨励等を目的として、本センターと開催する集会。申請者（研究代表者）と1名以上の分担者が、センター共同研究教員と協力して実施するものとする。開催場所は、本センター以外も可とする。

実施期間：1年間

2. 経 費

本共同研究に直接必要となる経費に限り、申請及び使用が可能です。当該経費は、予算の範囲内で鳥取大学の各規則、規定等に基づき、本センターにおいて支出します。各研究者へ配分した当該年度の予算は、原則として1月末日までに執行してください。なお、研究種目毎の申請可能な費目、申請上限額等の目安は以下のとおりです。（申請時に目的外の経費を認めた場合、当該経費の申請額は不要経費として取扱います。）

表1. 研究種目別の内容

	研究種目	研究費	集会開催費	旅 費									申請上限額 ／採択件数
				国内旅費			外国旅費		外国からの 招聘旅費				
				センターまで	調査研究	学会発表	調査研究	学会発表	センターまで	調査研究	学会発表		
共同研究	A 戦略	○	×	○	×	○	○	○	○	○	×	○	年間150万円 継続を含め、 合わせて4件程度 (2件)
	B 一般	○	×	○	×	○	○	○	○	○	×	○	年間30万円 継続を含め44件程度 (22件)
	C 若手	○	×	○	×	○	○	○	○	○	×	○	年間50万円 継続を含め6件程度 (3件)
	D 集会	×	○	○	×	×	×	×	○	×	×	×	年間50万円 1件程度

(注) () 内の件数は、令和6年度における前年度からの継続見込みの件数を内数で示す。

また、以下の大型設備について、利用料（以下、大型設備利用料という。）を共同研究経費にて負担いただきますので、利用予定の場合は必ず経費内訳に計上して申請してください。（新規申請の場合は、設備名、使用予定日数、1日当たりの単価、金額を記入してください。）
 大型設備利用料は本共同研究経費または本学が予算管理するその他経費以外では負担（支出）することが出来ませんので、ご注意ください。

表 2. 大型設備利用料の料金単価
 (1)

大型設備名	1日当たりの料金単価
① 乾燥地植物地球温暖化反応解析システム	@ 750円/日
② 乾燥地環境再現実験設備（亜熱帯砂漠シミュレーター）	@ 2,050円/日
③ 乾燥地環境再現実験設備（冷涼帯砂漠シミュレーター）	@ 2,050円/日
④ 砂漠化機構解析風洞システム	@ 650円/日
⑤ 乾燥地植物気候変動応答実験設備	@ 1,150円/日

(2)

装置（測定方法）	1測定当たりの料金単価
① IR-MS	@ 150円/測定
② ICP-MS	@ 250円/測定
③ LC-MS	@ 200円/測定
④ CNコーダー	@ 200円/測定
⑤ 全有機炭素・窒素分析装置	@ 150円/測定
⑥ 原子吸光光度計	@ 150円/測定

費目毎の注意事項（申請時及び採択後）

■研究費

- ・ 物品については、消耗品（単価10万円未満の物品（換金性の高いタブレット、デジタルカメラ及びビデオカメラは除く。）、及び単価10万円以上の物品のうちおよそ1年以内に消耗する物品）に限ります。
- ・ 下記の項目等については、予算計上及び支出することはできません。詳細は、事務手引きをご参照ください。
 - 各所属機関で整備すべき設備・備品（事務机、椅子、本棚、実験台等）
 - 汎用的な事務機器（パソコン、プリンタ等）
 - 毒物・劇物、医薬品等
 - 継続的に実施する研究補助、事務補助等に係る人件費
 - 書籍（雑誌、地図、辞書等の消耗品扱いの書籍を除く。）
- ・ 謝金については、調査補助謝金、論文校閲謝金、翻訳謝金、指導助言謝金が予算計上可能です。（学生の場合を除く。）
- ・ 経費を使用する際は、購入を希望する物品、役務、業務委託等の情報もしくは見積書の写しをセンター共同利用係宛に送付してください。
- ・ 見積書・納品書・請求書の宛名は、「鳥取大学」宛としてください。
- ・ 本学契約課より発注後、指定された場所に納品します。納品場所が共同研究者の所属機関の場合は、共同研究者に検収して頂きます。納品書に、共同研究者の受領印及び検収日を記入のうえ、納品された月中に必ずセンター共同利用係に送付してください（請求書・見積書が所属機関に届いている場合は、あわせて送付してください）。
- ・ 大型設備利用料については、四半期経過後、翌月15日頃に利用実績額を研究費の執行額として計上します。ただし、1～3月分については、3月の利用見込みを含めて3月15日頃に計上します。（3月の利用予定に変更のある場合は、2月中にセンター共同研究教員までご連絡ください。）

■集会開催費

- ・ 下記の項目について、予算計上及び支出することが可能です。ただし、共同研究者に対する謝金を支給することはできません。
 - 会場借上げ費用
 - 講演謝金・講演者に係る旅費（外国人招聘旅費も計上可能です。）
 - その他、集会開催に直接必要な経費（例：講演謝金、印刷代、文房具等）

■旅 費

- ・ 国内旅費は、本センターまでの旅費（研究打合わせ、共同研究の実施、共同研究発表会参加等）、及び本共同研究の成果発表（学会等）のための旅費に限ります。
- ・ 外国旅費は、調査研究旅費または成果発表（学会等）のための旅費に限ります。但し、研究種目Dにおいては、予算計上及び支出することはできません。
- ・ 招聘旅費は、海外から研究分担者等を国内に招聘する場合の旅費です。本センターまでの旅費（研究打合わせ、共同研究の実施、共同研究発表会参加等）、及び本共同研究の成果発表（学会等）のための旅費に限ります。
- ・ 研究種目B及びCの共同研究発表会の発表者参加に係る旅費については、各研究課題につき1名まで研究費とは別に旅費を助成いたしますので、予算計上は不要です。
- ・ 上記の目的以外のための旅費（特に、本センター以外での研究打合わせ）は、予算計上することはできませんので、ご注意願います。
- ・ 研究代表者、研究分担者及びセンター共同研究教員以外の旅費を支出することはできません。
- ・ 国内旅費を成果発表（学会等）に支出する場合は、申請時に学会名を記載してください。また、成果発表終了後には本共同研究の成果発表であることが確認できる書

類（要旨集等の写し）をセンター共同研究教員に提出してください。

- ・ 事務処理簡素化のため、出張依頼書は原則として送付しませんので、ご了承願います。（特に必要な場合は、事前にご連絡ください。）
- ・ 2月及び3月に計画された出張については、1月末日までに概算払で出張申請を行ってください。

3. 申請・参加資格

(1) 研究代表者

研究代表者として、申請資格を有する者は以下のとおりです。

- ① イ～ニのうち、いずれかに該当する機関に所属し、各所属機関の職務の一環として本共同研究を実施できる者
 - イ. 国公立の大学、大学院、短期大学及び高等専門学校
 - ロ. 大学共同利用機関
 - ハ. 国、地方公共団体、独立行政法人または地方独立行政法人の設置する試験研究機関
 - ニ. 国または独立行政法人の設置する省庁大学校
- ② 上記①にかかわらず、本センター長が特に適当と認める者

(2) 研究分担者

研究分担者は、研究代表者、センター共同研究教員とともに研究組織を構成する者で、研究代表者と協力しつつ、分担して採択された課題に関する研究を行う者のことをいいます。研究分担者として、研究組織に参画させることのできる者は以下のとおりです。

- ① 上記(1)に掲げる申請資格を有する者
- ② 上記(1)①イ～ニのうち、いずれかに該当する機関に所属する大学院生、またはこれに準ずる学生等（但し、指導教員等の許可を得ること）
- ③ 日本国外における①または②に相当する者

(3) 研究組織の変更

研究代表者の変更、研究分担者の追加等が必要となる場合は、変更・追加する者の氏名・所属・職名、および理由等を事前に共同利用係まで連絡願います。

4. 同一の申請者における重複申請の制限

重複申請の制限は次の表のとおりとなります。また、A、B、C、Dのうち重複申請できるのは最大2種目までとなりますのでご注意ください。重複申請される場合、申請1種目につき申請書1通が必要となります。

	A	B	C	D
A戦略		○	○	●
B一般	○		★	●
C若手	○	★		●
D集会	●	●	●	

●…重複申請及び重複採択可。

○…重複申請は可であるが、Aが採択された場合、BまたはCの申請は取消。

★…重複申請は可であるが、Cが採択された場合、Bの申請は取消。

5. 申請方法

申請者は、事前にセンター共同研究教員（別紙1参照）の許可を得て十分に打合わせを行い、各申請書（区分：新規は様式1、区分：継続は様式2）Wordファイル及び所属長の公印を押印したPDFファイル（PDFファイルは新規申請のみ）を電子メールに添付して提出してください（各2MB以内）。なお、新規・継続とも申請の際は必ず所属長等(学部長または部局長等)の承諾を得るとともに、新規の場合は申請書該当箇所に記載、公印を押印願います。なお、申請書様式は、センターHP（<https://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/activity/kyoudo/r05youkou.html>）からダウンロード可能です。

6. 提出先（電子メール）

鳥取大学乾燥地研究センター共同利用係

E-mail： j_research@ml.alrc.tottori-u.ac.jp

（メールタイトルは「令和6年度共同研究課題申請書（申請者氏名）」としてください。）

7. 応募締切

令和6年1月31日（水）

8. 選考

採否及び採択額は、申請内容、予算状況等を検討・勘案の上、学外有識者を含む共同研究委員会において審議の上決定します。なお、前年度の共同利用研究成果報告書の提出状況や、申請書の不備等により、採択の取消し及び採択額等において不利となる場合がありますので、ご注意願います。

9. 採否の通知

令和6年4月上旬に、申請者（研究代表者）に電子メールにて通知します。

10. 共同研究の成果発表

本共同研究による研究成果を公表する際には、当該論文・報告等に謝辞として「本共同研究により得られた成果である旨」を必ず明記し、課題番号を含めて記載してください。なお、謝辞の記載例は以下のとおりですので、記載の際の参考としてください。ただし、二重下線部分については、必ず記載してください。

（例）和文の場合

本研究は鳥取大学乾燥地研究センター共同研究（課題番号No.####）の助成を受けたものです。

英文の場合

This study was [partly] funded by the Joint Research Program of Arid Land Research Center, Tottori University (課題番号No.####).

（「This study was [partly] funded by ALRC, Tottori University (課題番号No.### #).」も可とします。）

※当該論文ないし報告等の別刷または写し1部を本センターに提出してください。また、研究成果の発表の際には、可能な限り本センターのロゴマークを付記してください。

(ロゴマークは、センターHPからダウンロードしてください。

<https://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/activity/kyoudo/alrcmark.html>)

1.1. 研究成果・研究集会の報告について

共同研究の研究代表者は、令和7年3月31日(月)までに、研究成果・研究集会の報告書(様式3)を作成し、電子メールにてWordファイルを提出してください(2MB以内)。

報告書様式は、センターHP (<https://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/activity/kyoudo/r05youkou.html>) からダウンロード可能です。

(メールタイトルは「令和6年度共同研究課題報告書(申請者氏名)」としてください。)

なお、報告書に記載した内容は、本センターのAnnual Report(年報)及びHPに掲載いたしますので、あらかじめご了承ください。

1.2. 共同研究発表会について

研究種目Aの研究代表者は毎年必ず、研究種目B・Cの研究代表者は研究期間中に1回以上、共同研究発表会(※令和6年12月7日(土)～8日(日)に開催予定)に参加し、研究成果の発表(研究種目Aは口頭発表、研究種目B・Cはポスター発表)を行ってください。研究種目B・Cの発表会発表者の参加に係る旅費については、各研究課題につき1名まで、研究費とは別に旅費を助成いたします。

発表会発表者以外の参加に係る旅費は研究費で計上可能ですので、申請の際は忘れず計上してください。ただし、研究代表者及び研究分担者以外の旅費を支出することはできません。

※「乾燥地科学共同研究発表賞」について

発表会の開催期間中、共同研究発表会における優秀な発表を表彰します。

1.3. 知的財産権の取扱い

本共同研究によって知的財産を創出した場合は、出願等を行う前にセンター共同研究教員及び研究分担者にご連絡ください。併せて、所属機関の知財担当部署へのご連絡をお願いいたします。権利の持ち分、出願手続き等については、協議の上決定します。

1.4. その他

- (1) 本学以外の共同研究員が研究を遂行する際に受けた損失、損害に関しては、原則として各所属機関で対応するものとし、本学は一切の責任を負いません。また、学生が共同研究に参画する場合は、傷害保険「学生教育研究災害傷害保険」等に加入してください。
- (2) 本公募要項に関して、または事務手続きについて不明な点が生じましたら、下記までご照会ください。

TEL : 0857-30-1010 (共同利用係)

FAX : 0857-29-6199

乾燥地研究センターの概要、活動内容等については、乾燥地研究センターHP (<https://www.alrc.tottori-u.ac.jp>) をご覧ください。

別紙1 令和6年度乾燥地研究センターのセンター共同研究教員・専門分野、研究内容及び連絡先一覧

(◎印は、戦略的重点研究課題のセンター共同研究教員を示す。)

教 員	専門分野	研究内容	ダイヤルイン	メールアドレス ・・・@tottori-u.ac.jp
教 授 黒崎 泰典◎	ダスト気候学	ダスト(黄砂)の時間空間分布。風、土壌・地表面状態とダスト発生(風食)の関係	0857(21)7032	kuro
准教授 谷口 武士	微生物生態学	乾燥地で生育する植物共生微生物の生態学と生態系修復	—	takeshi
准教授 木村 玲二◎	気象学	大気境界層内における気象現象の観測と物理的解明	0857(21)7031	rkimura
助 教 寺本 宗正	陸域炭素循環学	土壌炭素フラックスを中心とした物質循環に関する研究	0857(30)0217	teramoto.m
助 教 石井 直浩	群集生態学	乾燥地における生物多様性と生態系機能の関係	0857(30)6356	ishii-naohiro
教 授 藤巻 晴行	乾燥地灌漑排水学	節水灌漑、ウォーターハーベスティングと塩類集積対策	0857(21)7040	fujimaki
准教授 安 萍	植物生理生態学	乾燥地における農業生産の向上および植生の回復	0857(21)7035	an.ping
准教授 石井 孝佳	植物細胞遺伝学	染色体工学による新規作物改良技術の創造	0857(21)7283	ishii.t
教 授 恒川 篤史	保全情報学	乾燥地における植物生産及び生態系変化のモニタリングとモデリング	0857(21)7036	tsunekawa
教 授 坪 充	気候リスク管理学	乾燥地における農業気象と気候変動対応型農業	0857(30)6324	tsubo
准教授 飯田 次郎	国際開発協力学	中央アジア・コーカサスを含む、途上国の乾燥地における国際協力	0857(21)7235	jiroiida

主要な研究施設・設備

1. 施設

■アリドドーム実験棟

研究者が自由に動き回れる規模の大型人工環境制御施設であり、床面は砂丘砂で構成されています。

土壤劣化・修復実験区域(500m²)：塩性・アルカリ土壌における塩などの無機成分・水の挙動、土壌侵食、土壌塩類化防止などに関する研究を行う。

■インターナショナル・アリド・ラボ

組み換え植物栽培温室3室、遺伝子組み換え実験室、遺伝資源保存室、滅菌室、黄砂監視実験室、環境修復実験室があります。

■アリドトロン管理実験棟

大型ガラス室(800m²)2棟、実験室があり、実験室には環境制御(CO₂およびO₃ガス濃度制御可)のできる乾燥地植物地球温暖化反応解析システム3基、植物育成チャンバーなどの設備を配置しています。

■グロースチャンバー実験棟

環境制御(風速およびCO₂ガス濃度制御可)のできる乾燥地植物気候変動応答実験設備2基、パーソナルグロースチャンバー、超遠心機等の設備を配置しています。

■第2グロースチャンバー実験棟

環境制御(CO₂ガス濃度制御可)のできる乾燥地環境再現実験設備を配置しています。乾燥地環境再現実験設備は、亜熱帯砂漠シミュレーター3基および冷涼帯砂漠シミュレーター3基で構成されます。

■本館および国際共同研究棟

共同研究第1および第2実験室、生物系共通機器室があり、植物応答総合解析システムや安定同位体比質量分析システム、電子線マイクロアナライザー等、化学分析が可能な設備を配置しています。

■大型機械庫

実験圃場等の整備を行うことのできる大型トラクター、小型トラクター、小型建設車両(ユンボ)、小型運搬車等の設備を配置しています。

2. 主要設備

■レインアウトシェルター 2棟

概要：本設備により天水を制御し、乾燥地の圃場に近い条件を作り出し、実験室レベルの研究を大型作物にも応用することができます。必要に応じて、遠隔操作によるスプリンクラー灌水も可能です。

■乾燥地環境再現実験設備（デザートシミュレーター）

概要：高温・低温乾燥環境を再現し、亜熱帯砂漠・冷涼帯砂漠を対象とした持続的植物生産システムおよび土壌管理技術の研究開発に利用できます。

○亜熱帯砂漠シミュレーター 3基

性能：温度 照明点灯時および消灯時0～50℃ 精度±0.5℃
湿度 照明点灯時5～70%、照明消灯時5～90%精度±5%
照度 最大130,000Lx PPF1,800 $\mu\text{mol}/\text{m}^2/\text{s}$ 相当(灯下1mにおいて)、風速0.5m/s以下
分光制御 赤、緑および青色光をそれぞれPPFD0～600 $\mu\text{mol}/\text{m}^2/\text{s}$ で独立調光
CO₂濃度制御 大気濃度～1,200ppm 精度±30ppm
室内寸法(W)1,700×(D)2,600×(H)2,000mm

○冷涼帯砂漠シミュレーター 3基

性能：温度 照明点灯時および消灯時-15～30℃ 精度±0.5℃
湿度 5℃以上の温度条件下で、照明点灯時20～70%、照明消灯時20～90%
精度±5%
照度 最大120,000Lx PPF1,500 $\mu\text{mol}/\text{m}^2/\text{s}$ 相当(灯下1mにおいて)、風速0.5m/s以下
CO₂濃度制御 大気濃度～1,200ppm 精度±30ppm、
室内寸法(W)1,700×(D)2,600×(H)2,000mm

■乾燥地植物気候変動応答実験設備 2基

概要：温度、湿度、光、炭酸ガス濃度、風の環境条件を精密に制御できる人工気象設備で、乾燥地における将来の気候条件を再現し、土壌・水管理技術、緑化・生態系修復技術、適正植物栽培利用技術および環境ストレス耐性植物の作出などの研究開発に利用できます。

性能：温度 5～50℃、精度±1℃
湿度 5℃の温度条件下で、照明点灯時40～70%、照明消灯時40～90%
精度±5%
20～25℃の温度条件下で、照明点灯時10～70%、照明消灯時10～90%、精度±5%
25～40℃の温度条件下で、照明点灯時5～70%、照明消灯時5～90%、精度±5%
45℃の温度条件下で、照明点灯・消灯時5～60%、精度±5%
光源 LED 放射強度 PPF最大1,500 $\mu\text{mol}/\text{m}^2/\text{s}$ (灯下0.7mにおいて)
CO₂濃度制御 大気濃度～2,000ppm
風速 0～2.0m/s (吹出口から300mmにおいて)
室内に1/2,000ワグネルポット8台を設置できる自動ターンテーブルを有す。
室内寸法(W)1,800×(D)1,800×(H)2,500mm

■乾燥地植物地球温暖化反応解析システム 3基

概要：乾燥地の気候条件下におけるCO₂やO₃の植物の成長に対する影響、植物を通じた土壌へのCO₂の固定化などに関する研究ができます。

性能：温度 照明点灯時10～45℃、照明消灯時5～45℃ 精度±0.5℃
湿度 20℃以上の温度条件下で、照明点灯時15～70%、照明消灯時15～90%

精度±5%

照度 最大80,000Lx (灯下1 mにおいて)、風速0.5m/s以下

CO₂濃度制御 大気濃度~1,200ppm 精度±30ppm、O₃濃度制御 0~0.2ppm

精度±0.01ppm、室内寸法(W)1,000×(D)1,000×(H)1,500mm

■ 土壌水分環境実験装置 (ウェイングライシメータ) 4基

概要：地表蒸発量あるいは蒸発量と気象条件の関係を明らかにするものであり、短時間の蒸発量測定に適した電磁力自動平衡方式を採用した直接計量型のライシメータで、測定土壌の重量変化を連続且つ精密に測定して、地表面蒸発量および蒸発散量のデータを得ることが可能です。

性能：電子はかり最大計量能力 5,000kg、風袋消去範囲 0~5,000kg、重量測定器最大秤量 500kg、最小重量表示 0.05kg、測定容器寸法 φ1,500×1,800mm

■ 土壌微生物解析用DNAシーケンサー 1式

概要：植物や土壌から抽出したDNA及びRNAの塩基配列を網羅的に解読する装置です。

主要機器：DNAシケンサ、マイクロチップ型電気泳動装置、超微量分光光度計

■ 植物分子応答解析システム 1式

概要：乾燥地植物や耐乾・耐塩性微生物の塩類ストレス応答を分子生物学レベルで解析するために、ストレス応答性に関わる遺伝子情報の解析を行います。

主要機器：リアルタイムPCRシステム、サーマルサイクラ、蛍光顕微鏡、ハイブリダイゼーションオープン、超低温フリーザ、オートクレーブ、遠心エバポレータ

■ 植物耐塩性機能解析システム 1式

概要：塩類ストレス下で植物を栽培し成長反応を解析するとともに、ストレスに応答して植物体内に蓄積される成分を探索する装置です。

主要機器：光強度モニタリング装置、携帯用光合成蒸散測定装置、携帯用葉面積計

■ 電子線マイクロアナライザー 1式

概要：試料の表面構造の観察、また、試料に電子線を照射し、そこから発生する特性X線を検出することにより、構成元素を調べる装置で、植物組織内の元素の定性や定量に用いることができます。

主要機器：環境制御型電子顕微鏡(ESEM)、走査電子顕微鏡(SEM)、エネルギー分散型X線分析装置

■ 安定同位体比質量分析システム 1式

概要：有機物中の炭素、窒素の同位体比分析、液体中の水素、酸素の同位体比分析を行う機器で、植物が利用する水・養分のソース特定、長期的利用効率の評価に用いることができます。2022年に更新しました。

主要機器：安定同位体質量分析計、燃焼型元素分析計前処理装置、水同位体比測定前処理装置

■東アジア黄砂発生監視システム 1式

概要：東アジア乾燥地の黄砂発生の監視を目的とするもので、現地における黄砂の発生、気象条件を随時観測し、衛星を介してそれらのデータをアーカイブします。

主要機器：現地モニタリングシステム、全球データ自動ダウンロード・アーカイブシステム（対象データ MODIS (MOD13)、AVHRR NDVI）、準リアルタイム衛星データ自動ダウンロード処理システム（生成ソフトウェア MODIS (MOD13、MOD35)、高次処理データベース検索表示・公開システム

■地下水文機構探査システム 1式

概要：マルチチャンネル電気探査装置、地下レーダ探査装置、水位計及び土壌水分センサーによる非破壊の多点計測によって、地表面からベイスドゾーンを経て地下水層までの地下水文構造を探査します。

主要機器：地下水位変動観測システム、地下構造探査システム（マルチチャンネル電気探査装置、地下レーダ探査装置）、土壌水分計測システム

■砂漠化機構解析風洞システム 4基（うち3基は塩分動態モニタリングシステムと同時使用）

概要：乾燥地特有の乾熱風条件を再現して、強蒸散条件下の植物に対する乾燥ストレス、塩分ストレスの研究、乾燥条件下における土壌中の塩類集積機構の解明を行う。

性能：全面採光実験風洞 テストセクション寸法(W)1.2×(L)3.0×(H)2.0m、温度20～40℃、湿度（20℃時）15～40%（40℃時）5～40%、風速0～3.0m/s無段可変

■植物応答総合解析システム 1式

概要：耐乾性・耐暑性に関わる植物や微生物が生産する有機化合物群、生命活動の根本をなす元素群、さらには農薬や毒性を有する重金属などといったあらゆる物質レベルの分析データ、生理学的データを総合的に解析するシステムです。

○誘導結合プラズマ質量分析システム(ICP-MS)

概要：試料を構成する原子をプラズマによりイオン化し、電場や磁場内で分離することにより、各構成元素について高精度な定性/定量評価を行うことができます。条件にもよりますが、pptレベルでの分析も可能です。

○液体クロマトグラフィー質量分析システム(LC-MS)

概要：分離能力に優れた液体クロマトグラフィー部(LC)と定性能力に優れた質量分析部(MS)が結合されており、より高い精度の定性分析が可能です。

その他機器：超遠心機システム、遠心濃縮システム、超低温冷凍庫、サーモカメラ、光合成測定装置、ハイブリッド高速冷却遠心機

■フローサイトメーター 1式

概要：細胞核を蛍光染色することで、目的とする多量のサンプルの倍数性、ゲノムサイズなどが簡便に解析できます。集細胞遠心装置を使用することで少数の細胞からでも均一な標本作製が可能です。

■糖分析イオンクロマトグラフィシステム 1式

概要：生物もしくは食品中に存在する糖、糖アルコールおよびオリゴ糖を高感度に分析することが可能です。

■全有機炭素・窒素分析装置 1式

概要：対象試料の有機炭素、窒素の定量を行うために用います。
酸による前処理を必要とせず、土壌有機炭素、元素状炭素、無機炭素という形態の異なる炭素量を測定することができます。
また、同一サンプルから全窒素量を分析することが可能です。

■デジタルマイクロスコープ 1式

概要：高精度の実体顕微鏡であり、20倍から2500倍まで観察することができます。生物や物質の微細な表面形状を精細に観察し、三次元性状を計測することが可能です。

3. 主要な実験機器

- ◎気象環境計測器類
- ◎光合成測定器類
- ◎根系解析計測器類
- ◎衛星画像解析・地理情報システム (GIS) ソフトウェア
- ◎土壌水分測定器類
- ◎植物水分・蒸散測定器類
- ◎土壌・水・植物成分分析機器類

4. その他（研究室・宿泊施設等）

- ◎本センター敷地内の研修施設（ゲストハウス）に宿泊可能です。部屋数はシングル4室及びツイン2室で、シングルにユニットバス、ツインにはユニットバスとミニキッチンを完備しています。ご利用については、センター共同研究教員を通じてお申込みください。また、ゲスト用無線LANや、移動用電動自転車もご利用可能です。
- ◎ご利用可能な人数に限りがありますので、ご利用を希望される方は事前にご相談ください。